

## Lアラート全国合同訓練での代行入力実施に向けた検討状況

大規模な災害が発生し、庁舎が倒壊している等の理由により、市区町村では、Lアラートへの入力が円滑に実施できない場合がありうる。そのような場合の対応方策の一つとして、都道府県等による代行入力が有効であると考えられるものの、災害本番時に初めて実施することはハードルが高く、事前の準備が必要と考えられる。

そのため、2025年度以降のLアラート全国合同訓練において、都道府県による代行入力を実施していただくことが有効と考えられるが、実施に当たっては、いくつかのパターンに分けて、具体的な状況、課題や対応案等を整理することが必要。

そのため、以下のパターン(案)をもとに、さらに深掘りするため、自治体にヒアリング予定。ヒアリング結果等を踏まえた整理を実施した上で、2025年度のLアラート全国合同訓練において、都道府県による代行入力を実施することを目指す。

### 【具体的なパターン(案)】

(前提)「猛烈な大型台風」が接近しており、数日後に勢力範囲に含まれることが確実になった。

1) 現在、土砂崩れで庁舎が利用できなくなっており、市区町村の責任者が「市区町村で情報発信ができない」と判断した。

案① 市区町村からの連絡を受け、都道府県にて都道府県担当者が代行入力する。

・災害終了まで、市区町村で避難情報を入力しない。(代行入力にて全て対応 ※2)

Q1: 1)の対応中、市区町村での情報発信が回復した場合は市区町村に切り替えるのか。

A1: 1)の体制を維持し継続する。

Q2: 非常に強い台風が上陸中に、1)が新たに生じた場合はどうすればよいか。

A2: 市区町村の担当者から現状をヒアリングし、最新情報を入手する。

以下、1)と同様。

※1.代行入力できる情報(避難情報、避難所情報等)については、事前に各都道府県と調整しておくこと。

(情報連携するツールやフォーマットを規定しておく、再確認や遅延が生じにくくなる)

※2.都道府県担当者が都道府県にて代行入力する場合、**途中で市区町村の担当者に切り替えることはリスクが高い為、避けるべきである。**(重複入力や更新ミスが発生しやすい)